〈実践論文〉

三重県の地域的特色をとらえる中学校地理授業「私たちの住む三重県」

～新学習指導要領における地理授業のあり方を求めて～

藤　森　秀　明*

本報告は，2002年11月から2003年3月にかけて，三重県上野市（現伊賀市）立丸山中学校でおこなった実践である。

Ⅰ　社会科の目標と学習指導要領における中学校地理学習

(1)　社会科の目標

人間はだれでも，さまざまな人々や社会，自然，文化などと関わりを持ちながら，豊かに生きたいと願っている。そして，そのような願いを実現しようと，さまざまな工夫や努力をしながら生きている。私たちはさまざまなかかわりをもった社会の中で生きている。

そのような社会での人々の生活について，総合的な理解を図り，「公民的資質の基礎を養う」ことをねらいとしているのが，社会科の学習である。つまり社会科は，主として人間と人間のかかわりや，人間と社会や自然，文化などとのかかわりあいを学び，社会の中で生きる力を育てる教科である。

こうした社会科の学習指導において求められることは，児童・生徒が自分で社会のかかえる問題を見つけ，自ら考え判断しながら，自ら解決していく資質や能力，すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに，問題解決の喜びを実感できるようにすることである。単に知識や技能をあれもこれも言葉として記憶させることが重要なことではない。問題解決能力とは，生活や学習の中ではじめて遭遇する課題や場面において，さまざまな情報の中から自分にとって本当に必要とする情報を取捨選択しながら，主体的に自らの考えや解決策を築き上げていく力であり，問題解決学習は児童・生徒ひとりひとりが自らの問題意識に即して学習問題をとらえ，それに主体的に取り組み，思考を働かせて，その解決のための方策を探求することができるように自主的な活動を組織する学習のことである。

知識詰め込み教育ではなく，こうした問題解決学習の取り組みによってこそ，社会科がその成立以来めざしてきた人間と人間のかかわりや，人間と社会や自然，文化などとのかかわりを理解できるのであり，さらにひとりひとりのその子らしさが認められることによって，自信をもって社会に対して主体的に働きかけることのできる能力である「生きる力」も育てられるものと考える。

(2)　新学習指導要領における中学校地理学習

多様な情報・価値観が氾濫する現代社会に対応するためには，用語としての地理的知識の獲得だけでなく，学び方を学ぶこと，つまり知識を取捨選択し使いこなす能力，「生きる力」の育成が必要である。しかし，ややもすれば中学校社会科地理の授業では表面的な知識の教授が中心となる傾向が多く見受けられる。そこで本単元では，生徒の興味関心にもとづいた話し合い活動や調査活動を大切にする中から，言葉としての地理知識を獲得するだけでなく，学び方を学び，知識を応用して生かすことができるような授業の実践，「生きる力」の育成をめざしたいと考える。

新学習指導要領の地理の目的に「地域的特色をとらえるための視点や方法を身につけさせる」「各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること，また，それらは諸条件の

＊三重県伊賀市立霊峰中学校

変化などに伴って変容していることを理解させる」という一節がある。そこで本実践では，三重県の地理的・歴史的・文化的などさまざまな特徴を教材として，新学習指導要領の目的を実現するための指導のあり方についての研究を進めた。具体的には，三重県は近畿・関西か中部・東海か，についての話し合いや調査をする過程の中で，伊賀地方の特徴や住民の思いを切り口として，三重県の地方的特殊性と一般的共通性をとらえさせたいと考えた。

Ⅱ　指導方法

(1)　めざす生徒像

多様な情報・価値観が氾濫する現代社会に対応するためには，言葉としての知識の獲得だけでなく，学び方を学ぶこと，つまり知識を取捨選択し使いこなす能力の育成が必要である。そこで中学校社会科で目指す子ども像を以下のように設定した。

① 社会事象やその変化に興味を持ち，自ら学ぶ意欲をもって学習に参加しようとする子ども。
② 疑問や問題を解決したりするために資料を収集し，活用することができる子ども。
③ 資料を活用したり，他の子どもの意見を取り入れたりしながら，思考・判断することのできる子ども。
④ 自己の考えやその変容，学習内容などを筋道だてて表現できる子ども。
⑤ 学習で得た力をもって社会の変化に主体的に対応し，よりよい社会を築いていくために，意欲的に考え，行動しようとする子ども。

生徒が授業の過程を通じて，①の段階から②③④の段階，そして⑤の段階へと成長していくことをめざしたい。

そのためには，生徒が自分で問題や課題を見つけ，自ら考え判断しながら，自ら解決していく資質や能力，すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに，問題解決の喜びを実感できるような授業を構想したいと考える。

(2)　この教材の持つ意味

本教材は，生徒が身近な伊賀地方そして三重県について話し合い・調査をするなかから将来の伊賀地方・三重県を考えることと，住みよい地域とは何かを考えることを想定している。一つは身近な地域教材をつかい生徒が社会科で必要とする問題解決能力の育成をめざしたものであり，もう一つは地域に愛着を持ち，将来地域の担い手になっていけるような生徒の育成をめざしている。

具体的には，自分たちの郷土に対してあまり関心をもっていなかった生徒，三重＝伊賀という狭い認識しかもっていなかった生徒が，ただ「三重は関西か東海か」という導入教材に興味を持っただけの段階から，郷土の現状やかかえる様々な問題点について，話し合い活動や調べ活動をおこない，様々な人の考えや願いにふれることにより，上記(1)のめざす生徒像の①の生徒から始まり②③④の生徒，そして⑤の生徒へと成長していくことをめざしている。

(3)　評価

各時間ごとに，生徒に自己評価をおこなわせる。これにより生徒ひとりひとりに自らの授業への取り組みの様子・意識の変化を把握させ，次時からの活動の方向や意欲につなげたい。また同時に，教師が生徒の社会的事象について取り組みの様子や解決する能力がのびてきているかどうかを判断する手だてとしたい。つまり，自己評価をめざす生徒像の①から始まり②③④へ，そして⑤へと成長しているかどうかを見極める一つの手段としたいと考える。

さらに，指導の流れにそって生徒の活動を評価する観点を定める。めざす生徒像にむけての評価別観点である。生徒の問題解決能力の伸長を見つめるとともに，次時の指導のあり方を考

える手だてとしたい。

Ⅲ　教材となる地域の概要

(1)　三重県は近畿・関西それとも中部・東海

三重県は，近畿と中部の中間に位置し，それぞれの中心都市である大阪と名古屋に近接していることもあり，文化や経済など様々な側面で双方の影響を強く受けている。

そのためか三重県はしばしば近畿・関西として扱われたり，中部・東海として扱われたりと，地域的な区分は一定しない。

たとえば，中学校教科書や地図帳では，三重県は近畿地方と区分されている。広辞苑でもやはり近畿地方になっている。しかし行政機関の場合，ごく一部を除き大半が，三重県を中部・東海ブロックに区分している。

マスメディアの区分でも混在している。主な新聞も多くは中部・名古屋本社発行であるが，三重県西部の伊賀地方や南部の東紀州地方の一部地域（熊野市）の新聞の多くは大阪本社発行である。主なテレビ番組も多くは名古屋のテレビ局の配信であるが，伊賀・東紀州など一部地域では大阪のテレビ局からの番組を見る。また，鉄道もＪＲ亀山駅以東はＪＲ東海，以西はＪＲ西日本に分かれるし，電力供給は大半が中部電力からであるが，一部は関西電力のエリアである。

日常の生活も，伊勢湾岸地域の住民は人的にも物的にも名古屋との結び付きが強く，プロ野球であれば，中日ファンが多い。他方，大阪への交通が便利で通勤圏となっている伊賀地方は，関西という意識が強い。当然プロ野球は阪神ファンが多い。市外局番を名古屋圏と同じ０５から関西と同じ０７ではじまる番号に変えようという運動もあるほどである。

民俗学的にも，正月の雑煮は東の北・中勢地域は角餅で関東風のすまし汁。関東すなわち東の文化圏を表す。一方，志摩や南勢地域と伊賀地域は丸餅で味噌汁が多い。関西すなわち西の文化圏を表す。

また，インスタント食品のようなどこで食べても同じ味に思える工業製品も，違う味付けがされている。一例をあげれば，カップ麺の日清どん兵衛では（Ｅ）か（Ｗ）と小さく表示されており，（Ｅ）は濃い味の関東風，（Ｗ）は薄味の関西風を示している。その境界線がまたがっているのは，伊賀地方である。

まさに，三重県は行政や文化の東西の「結節点」である。

(2)　伊賀びとのおもい

伊賀地域は三重県の北西部に位置し，滋賀県・京都府・奈良県に隣接している。伊賀を流れる河川はすべて木津川となり，最終的には淀川となって西の大阪湾に注ぐ。

伊賀地域の行政圏域は，上野市・名張市・伊賀町・島ヶ原村・阿山町・大山田村・青山町の２市３町２村 [(1)] で，面積は三重県全体の11.9%にあたる688 ㎢，人口は9.9%にあたる184,831人（平成12年国勢調査）である。昭和40年代からは大阪圏のベットタウンとして近鉄大阪線沿線の住宅開発が進み，名張市では2.6倍，青山町（現 伊賀市）で1.5倍に人口が増加している。

歴史的にも，壬申の乱の際に大海人皇子が伊賀を通過するなど，古くから奈良や京都から伊勢への交通の要衝として開けてきた。そのため，古代から時の都の影響を強く受け，隣接する大和・山城・近江地方と共通性の高い生活文化，祭り，伝承などを有している。

現在においても，関西圏と中部圏の結節点に位置し，関西圏と中部圏の商圏が交錯するエリアになっているが，企業立地や集客交流では中部圏よりも関西圏からの立地企業数，入込客数の割合が高くなっている。

また，地域の南部を中心に関西圏へ２万人が通勤・通学するなど，買い物や娯楽の面を含め，日常生活圏としての生活空間を共有している。さらに，住民の多くは日常的に関西系のテレビ・ラジオを受信し，関西地域と同じ紙面の新聞を

購読するなど,「伊賀は関西」という意識を強く持っている。

しかし,伊賀地域は関西系のテレビ・ラジオ局等の報道機関の取材エリア外にあり,出版の面でも伊賀の情報は主に東海系の雑誌に掲載されている。このように,伊賀地域から積極的に情報発信しないかぎり,関西地域の住民に伊賀地域の情報が届きにくい状況にある。情報発信力の弱さと相まって,関西地域の住民には伊賀地域が実態よりも遠いと感じられている。伊賀地域の住民の関西地域への思いに比べ,関西地域の住民の伊賀地域への関心は低く,両者の意識には大きなギャップがあるといえる。

また,伊賀地域は行政的には東海地域に属しており,関西地域の行政や関係団体との交流の機会は多くないといえる。特に,関西地域に通勤・通学する住民が運転免許の更新やパスポートを取得する場合や,関西地域から伊賀地域に進出した企業が行政の許認可を受けようとする場合には,日常の活動エリアとは逆の津市や名古屋市へ行く必要があるなど,住民の日常生活圏や企業の経済活動エリアと行政エリアとの間にギャップが生じている。

まさに,生活圏としての伊賀は関西,行政圏としての伊賀は東海なのである。

(3) 三重のくにづくり

平成10年度,三重県は「三重県広域交流構想」を策定した。これは,三重県が近畿,中部の両圏域を結節する位置にあるという地理的優位性や豊かな歴史文化資源に代表される地域特性を生かして,両圏の資源の共有化や機能の相互補完を進める交流・連携の取り組みを積極的に進めようとするものである。また伊賀地方についても「三重のくにづくり宣言」のなかで,自然との共生を図りながら,地域の歴史と伝統文化を生かしながら,近畿圏・中部圏の両大都市圏に近接するという優位性を生かして交流・連携を強化することを期待している。

折しも,三重・畿央地域は首都機能移転の候補地の一つとなっている。これは三重が日本の国土の中央に位置し,全国から均等なアクセスが可能であること。また,近畿圏と中部圏の結節点にあることにより,両圏域からの独自性を保ちながら連携して首都機能を担うことが大きな理由の一つにあげられている。

つまり,三重の将来は,近畿関西圏・東海中部圏のどちらに属するかということにこだわるのではなく,結節点としての地理的優位性を生かすことにかかっているのである。そして,そこに住む人々が暮らしやすい地域社会を実現することにかかっているのである。

Ⅳ 対象生徒について

(1) 生徒の社会科認識

1年A組は男子13名・女子14名,計27名のクラスである。社会科の授業への取り組みはとても積極的である。4月からの授業では,生徒たちの意見や疑問を中心として進んでいくことが多い。

4月入学時に社会科に対する意識調査を実施した。主な結果は以下の通りであった。

〈社会科は好きか〉
好き14人　ふつう7人　嫌い6人

〈社会科で重要なことは〉
言葉を覚える7人　調べる14人　考え話し合う6人

〈今までの社会科の授業は〉
先生が説明する20人　調べたり見学したりする13人　疑問について話し合う11人
(複数回答)

社会科を「好き」であるという生徒が多い。また,社会科で重要なことは「言葉を覚える」ことよりも「調べる」ことや「考え話し合う」ことであると認識している生徒が多い。が,今までの社会科の授業は「先生が説明する」ことが多かったことがあらわれている。特に「嫌い」であると答えた生徒6人全員が今までの社会科

の授業は「先生が説明する」と答えている。また，〈社会の学習は何のためにすると思いますか（記述式）〉という項目については，「知識を得るため」という内容を書いた生徒よりも「大人になったとき社会に役立てるため」という内容を書いている生徒の方が多い。

このことからも，生徒は社会科の本来の目標である「公民的資質の育成」ということに気づいているようである。しかし，授業の実態は調べたり話し合ったりするよりも，教師が説明に終始することの方が多いようである。

このような生徒に対して，生徒が自分で問題や課題を見つけ，自ら考え判断しながら，自ら解決していく資質や能力，すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに，問題解決の喜びを実感できるような授業を構想したいと考えた。

(2)　丸山中学校の生徒と地域認識

丸山中学校は近鉄伊賀線・大阪線に沿った上野市（現 伊賀市）の南東部を校区とし，依那古小学校・比自岐小学校・神戸小学校の3つの小学校区からなる。依那古小学校と比自岐小学校は人口移動の少ない農村部が校区である。一方，神戸小学校は農村部に加えてあたらしく開発された住宅団地，伊賀神戸駅周辺の朝日ヶ丘町・上神戸南団地地区，美旗駅に近いきじが台地区を校区にしている。近鉄大阪線を使えば伊賀神戸から大阪へは約1時間の距離にあるため，大阪へ通う人のベッドタウンとなっている。1年生（総数54人）ではこのベッドタウンに住む生徒が17人で，うち転入元は大阪府10人，奈良県3人，愛知県2人，埼玉県1人，三重県内1人である。伊賀地方以外で働く家族は15人で，大阪9人，奈良4人，津1人，名古屋（単身赴任）1人である。また以下のアンケート結果からも明らかなように，生徒の多くは東海地方の都市よりも関西地方の都市，特に大阪に対して明らかに親近感を持っている。

○もっとも身近に感じる都市は（大阪・奈良・津・名古屋から選択）
　大阪　28人，奈良　12人，津　10人，名古屋　4人
○買い物や遊びに行く都市は（伊賀地方以外で複数回答）
　大阪　25人，奈良　6人，名古屋　6人，津　4人，　以下略

単元に入る前，1年A組の生徒に三重県について疑問に思っていることについて調査をした。今回のテーマである「三重は近畿なのか，中部なのか」「三重は何地方か」をあげた生徒がいた。またテーマに関わるものとしては「三重よりは，伊賀とか伊勢というイメージの方が強い。なぜ三重なのか」「三重はなぜ目立たないのか」があった。ただ，なしと答える生徒も多く，郷土である伊賀地方や三重県についてあまり興味を持って生活しているとはいえない。

また三重についてのイメージや疑問をあげさせたところ，忍者やかたやき，組みひもといった伊賀地方に関わるものがほとんどであった。つまり生徒の三重に関する認識は，三重全体に広がっているのではなく，三重＝自分たちの生活する伊賀，という認識であると考えられる。

Ⅴ　指導過程

(1)　指導の構成

第１次　三重は近畿関西か中部東海か〈導入〉

第２次　自分たちは関西人だと思っているけど，三重を近畿関西と思っていない三重県人がいる〈認識の矛盾〉

第３次　三重県内の中学生の認識を調べよう〈アンケート調査〉

第４次　伊賀の人だけが関西と思っているらしい〈認識の展開Ⅰ〉

第５次　伊賀の人だけが関西と思っているわけを調べよう〈調査・考察〉

第６次　伊賀の人だけが関西と思っているわけを考えよう〈認識の展開Ⅱ〉

第７次　三重県について行政・教科書会社・諸機関や他地方の人はどう考えているのか調べよう〈質問調査〉

第８次　三重県はどうあるべきなのかを考えよう〈認識の展開Ⅲ〉

第９次　自分たちの三重県・伊賀に対する思いを明らかにしよう〈思考の発展〉

(2)　指導のながれ（全29時間）

＜第１次＞　１時

評価の観点

導入：　生徒アンケート＜身近に感じる都市＞結果
（大阪52%、奈良22%、津19%、名古屋7%）
⟶　感想、なぜだろう？
内容　‥‥　大阪へは便利である
親戚が多い（特にきじが台の人）
言葉で違和感がない　など
→　うちら関西人やんな？
↑
提示：　生徒疑問「三重は近畿関西か中部東海か」（ＤＡ）
（その際、日本地図（掛け図）を使い、三重県の位置および近畿関西、中部東海の位置を簡単に確認）
⟶　話し合い
・地図帳で見たら近畿と書いてある
・話し言葉は関西弁だ（あほとバカの使い方）
・携帯電話は東海である
・最近中部と聞くことが多い
・ＴＶの天気予報の問題
・味覚の問題（雑煮、どん兵衛）
・エスカレーターの乗り方　　など

⟶　自分なりにどちらと思うか、考えとその根拠を明らかにしよう（調査用紙記入）

（結果：近畿関西と思う生徒　８１％　中部東海と思う生徒　８％）

◎話し合いから自分なりの関心を持てたか（興味関心）
○関西・東海について知っていることはあるか（知識理解）
◎自分なりの考えと根拠をもつことができたか（思考）

＜第２次＞　２～４時

考えと根拠をもとにして、
話し合い「三重は近畿関西か中部東海か」
内容
うちら関西人やんな？　をきっかけに話し合い
→ 話し言葉の問題
地図
ＴＶの天気予報
携帯電話のエリア　など
⟶　関西でいたい
（まだ、この時点では生徒の三重認識は、三重＝伊賀であり、三重県全体に広がっていない）
↑
提示：　電話市外局番分布図・携帯電話ネットワーク図
（三重県は中部東海圏になっている）
感想の発表
近い三重を入れないのはどうしてだろう
関西に入れてほしい
← もとから関西ではないのか
⟶　おかしい
↑
提示：　伊賀地方の電話番号「０７」化の動き（新聞記事）
感想の発表
勝手に中部に入れられた
関西に入れてほしいから言っている
⟶　賛成
↑
提示：　桑名正和中生徒の電話番号についてのアンケート結果
（０５でよい、０７化はおかしい）

感想の発表　⟶　話し合い

「そんなことをいうのはおかしい、三重は近畿関西だ」
「正和中の生徒はなぜそんなことをいうのか」
⟶　三重県の地理的状況の把握へ
（三重県には他にも様々な地域があることに気づき、三重県という認識が三重＝伊賀から三重県全体に広がる）

三重は布引山地で二つに分かれている
三重県は二つに分かれたらよい
← 分かれる必要はあるのか
↓
三重が分かれているのではなく、地域が分かれているだけ
‥‥　伊賀・北勢・中勢・南勢・志摩・東紀州
昔は国に分かれていた　‥‥　伊賀・伊勢・志摩・紀伊
三重は分れていない、ひとつ

川の流れ　伊賀は大阪湾へ、その他は伊勢湾へ
↓
関西だろうか（ＫＫ）
三重は政治的に中部、文化的に近畿？
言葉・ＴＶ・どん兵衛・野球の地域割
県ができた時のいきさつはどうだろう

でもうちらは関西人だと思う
↓
「三重県内の他の地域の人はどう考えているのだろう」
↓
他地域の生徒や伊賀地域の他の生徒にも聞いてみよう
（桑名・四日市・亀山・津・志摩・紀南・名張）

◎自分なりの根拠をもとに考えることができたか（思考）
○話し合いに関心を持って取り組めたか（興味関心）
○自分なりの関心を持って話し合えたか（興味関心）
◎新しい情報を加えて考えることができたか（思考）

↓

＜第３次＞　５～７時

＜他の中学校の生徒へのアンケート調査＞
「どういうことを聞けばよいだろう」
↓
調査内容について話し合い→調査項目の決定
・三重は近畿関西それとも中部東海、あなたはどちらと思いますか？
・あなたは大阪と名古屋どちらを身近に感じますか？
・あなたは関西人ですか？
・あなたが見ているテレビ放送は大阪からですか名古屋からですか？
・あなたは何弁を話しますか？
・あなたの家の料理の味は？
・あなたの家の正月のおぞうにの味は？
・三重県の電話市外局番についてどう思いますか？
・三重県を布引山地で２つに分けることをどう思いますか？

調査方法の確認
・アンケート用紙の作成について
・依頼の仕方について

調査の様子
社会係を中心にアンケート・依頼文を作成
→クラス全体でアンケート・依頼文を検討
→社会係によるアンケートの発送作業
⟶　クラス全体でアンケートの集計
社会係を中心に謝礼文の検討
→社会係による謝礼文およびアンケート集計結果の発送作業

○調査項目作りと集計に関心を持って取り組めたか（興味関心）
◎今までの話し合いの内容を考え調査項目を作ることができたか（思考）
○調査結果をわかりやすくまとめることができたか（資料活用）

↓

＜第４次＞　８～９時

前提の確認「三重は近畿関西である」
↑
アンケート結果の発表
→名古屋のＴＶを見ている人が多い
言葉は多くの人が関西弁だと思っている

◎思考の視点を変えながら考えるこ

関西人とは思っていない
伊賀だけ関西を身近に感じている

→ 伊賀の人だけ関西と思っているのに他の地域の人は思っていない → なぜ？
言葉と身近に感じる所は一致しないのか
阿田和は？

→ **話し合い「伊賀の人だけが関西と思っているが、他の地域の人が思っていないのはなぜだろう」**
伊賀地域以外の人も関西弁を話しているのに？
伊賀以外は生活は名古屋が中心なのか？
伊賀だけ地形的に出っ張っている
昔の国で影響があるのではないか
昔はどこの影響があったのか
阿田和は他の地域と違いそう

→ **「伊賀は本当に近畿関西と考えていいのか」**

とができたか（思考）
○話し合いに関心を持って取り組めたか（興味関心）

↓

<第5次>　10～12時

<調べ学習>
→**それぞれの地域の人がなぜそう思ったか、理由を調べてみよう**
1 ひとりひとりが予想をたてる
2 予想に迫るための調査テーマの設定をおこなう。
3 調査の方法を考える
4 調査する
5 わかったことをテーマに沿ってまとめる
（それぞれの地域の特徴を調べることにより、伊賀・三重をあらためて見つめ直す）

→ 本や資料、インターネットで調べてみよう

調査内容
農業、工業、通勤、商圏、交通、マスコミ、生活文化、言語、歴史、総合・新しい動き

◎今までの話し合いの内容を考えながら調べたり質問できたか（思考）
◎目的に応じて、様々な資料を用いて調べられたか、調査結果をわかりやすくまとめることができたか（資料活用）
○積極的に調査活動に取り組めたか（興味関心）

↓

<第6次>　13～19時

調べ学習結果の発表と話し合い
テーマ「伊賀の人だけが関西と思っているが、他の地域の人が思っていないのはなぜだろう」

農業
東紀州をのぞき、米作りが中心
東紀州はみかんが多い
松阪牛・伊賀牛
野菜はそんなに多くない
北勢は名古屋が近いから野菜作りの割合が高いようだ
土地が宅地化により農業従事者が減っているようだ
※農業のやり方は差が少ない
※出荷先がわかれば地域差がわかるが

工業
四日市・鈴鹿は中京工業地帯の一部になっている
公害として四日市ぜんそくがおこった
伊賀地方には大阪を本社とする会社の進出が多い
伊賀はなぜ大阪が多いのか
※関係あるかもしれない

買い物
四日市・桑名の人は名古屋へ
名張・青山の人は大阪へ

通勤・転居
北勢は名古屋、統計に大阪がない
南勢は名古屋のほうが多い
伊賀は大阪、統計に名古屋がない
大阪方面から伊賀、かつて大阪にあった会社へ働きにくる人も少しはいる

交通・電車
伊賀は大阪への本数が圧倒的に多い
北勢は名古屋への本数が圧倒的に多い
→東紀州の人はどこへ行っているのか
→伊賀の人が大阪へ行って名古屋へ行かないわけは
→近い・安くいける
※関係ありそう

テレビ
伊賀は主に大阪から、関西を身近に
北勢・中勢・南勢・志摩は名古屋から、東海を身近に
東紀州は大阪と名古屋から
大阪へも名古屋へも列車は少ない
→熊野地方としての一体感
※関係ありそう

もち文化
伊賀だけ関西の影響
三重県を丸餅と角餅の境界が通る
→関西の文化と江戸の文化の境界
布引山地で分かれる
川の流れる方向
※食べるものが似ていたら考えが近いかな

言語
長良川を境に三重県は関西弁に近い
昔の国の境で差
伊賀と伊勢は布引山脈で行き来が少ないので差
※関西弁ならみんな関西と思うのではないか
→身近に感じる地域と違う
→身近の基準は何か

歴史
もともと三重は畿内とのつながり
北勢は信長の支配により尾張とのつながり
江戸時代、三重は9つの藩により支配
伊賀は江戸時代、津を中心とする藤堂藩が支配
↓
○伊賀（上野盆地）は大阪を身近に感じる
大阪の人も住み、文化も関西
○北勢・中勢・南勢は鉄道・道路などにより名古屋とのつながり
※身近の基準ってなんだろう
言葉や行くところ
親戚
自分に近い存在 →人それぞれ

※三重県とは‥‥いろんな地域のつながり
どこへでも便利
正式に決まっていないのではないか、国が決める？
三重はどちらでもいえる
東海という人もいるし、関西という人もいる
※しかし、伊勢平野のほうが人口が多いから、伊賀も東海にまとめられていることはないか、無理矢理は困る
↓
いろんな立場の人に聞いてみたい

新しい動き
電話番号「07化運動」は伊賀に不利益があったからおきた
→どんな不利益か　まだやっているのか
※伊賀は関西とのつながりが多いから、三重をまとめて東海と見てほしくない
※身近に思っている地域と同じほうがよい
→北勢の人は関西とは思われたくないだろう
三重を二つに分ける？
道州制の動き（PHP研究所案）で三重は東海に区分されている
福井県も三重県とよく似ている
→似た文化でまとめるなら伊賀は違う
決める人に（違うと）いう必要がある
三重を分けて考えたらよい
自分の意識している方で
※住んでいる人が納得できる分け方をしてほしい
↓
やはり、聞いてみよう
→だれに聞くか
国土交通省の人に
帝国書院（教科書会社）の人に
三重県庁の人に
電話番号「07化運動」の関西TVの岡本さんに
大阪・名古屋・熊野に住んでいる人に
→それぞれ何を聞くか考えよう

◎自分が調べたことを振り返りながら考えることができたか（思考）
○調査結果をわかりやすく提示することができたか（資料活用）
○発表された内容を理解することができたか（知識理解）
○発表をしっかりと聞き、その後の話し合いに関心を持って取り組めたか（興味関心）

↓

<第7次>　20時

<（手紙による）聞き取り調査>
調査内容について話し合い→調査項目の決定

国土交通省
- 県を分けたときの基準
- 地方はどうして分けているのか
- 地方をどういう基準で分けたらよいか
- 三重は近畿か東海か、どちらに入れるのか
- 三重が近畿か中部か、正しくは決まっているのか
- 教科書で三重を近畿に入れた理由
- 道州制についてどう思われますか
- 伊賀地方では身近に思っている地域（大阪方面）と県が違います。同じ方がよいと思いますか
- 住んでいる人の考えと、県としてのまとまりのどちらが大切だと思いますか
- 三重は布引山脈で川が伊勢湾と大阪湾で分かれ、文化も変わります。県を二つに分けることはいいと思いますか

三重県
- 三重県は何地方になるのか
- 三重県独自の文化って何ですか
- 地方をどういう基準で分けたらよいか
- 伊賀地方では身近に思っている地域（大阪方面）と県が違います。同じ方がよいと思いますか
- 住んでいる人の考えと、県としてのまとまりのどちらが大切だと思いますか
- 三重は布引山脈で川が伊勢湾と大阪湾で分かれ、文化も変わります。県を二つに分けることはいいと思いますか

帝国書院
- 三重をどちらの地方に入れるのか
- 三重を近畿に入れた理由
- 三重の多くは東海を身近に感じる人が多いようですが、どうして近畿にしたのか
- 地方をどういう基準で分けたらよいか
- 地図を作っているときに三重を関西にしようか中部にしようかと考えたりしないのか
- 地方はどういう役割をしているのか
- 伊賀地方では身近に思っている地域（大阪方面）と県が違います。同じ方がよいと思いますか
- 住んでいる人の考えと、県としてのまとまりのどちらが大切だと思いますか
- 三重は布引山脈で川が伊勢湾と大阪湾で分かれ、文化も変わります。県を二つに分けることはいいと思いますか

PHP研究所

◎今までの話し合いの内容を考えながら質問が作れたか（思考）
○積極的に質問項目を作ることができたか（興味関心）

・道州制を詳しく
・道州制はどうなるのか
・道州制はなぜ考えたのか
・道州制をする日は本当に来ると思いますか
・道州制の利益・不利益
・道州制にしたときの地方の分け方
・そのわけ方にした基準
・文化で分けようとしているのなら伊賀は関西である
・三重はやはり東海ですか
・道州制案で三重は東海に入っているが、伊賀を文化的に近い関西にできないのか
・道州制をするのに、どうして住んでいる人が納得できる地方分けをしないのか
・地方をどういう基準で分けたらよいか
・伊賀地方では身近に思っている地域（大阪方面）と県が違います。同じ方がよいと思いますか
・三重の中で二つの地方があったらだめなのか
・住んでいる人の考えと、県としてのまとまりのどちらが大切だと思いますか
・三重は布引山脈で川が伊勢湾と大阪湾で分かれ、文化も変わります。県を二つに分けることはいいと思いますか

「電話番号０７化運動」関西テレビ岡本さん
・「０７」化はどういう運動をしたのか、その経過は
・今、運動はどうなっているのか
・「０５」だとどんな不利益があったのか
・どういう思い出でその運動をしていたか
・何をねらって運動をしたのか
・なぜ伊賀を近畿地方のひとつと考えてほしいのですか
・これからも運動を続けていくのか
・伊賀だけ無理矢理東海は困るという意見が出ましたがどう思うか
・伊賀地方では身近に思っている地域（大阪方面）と県が違います。同じ方がよいと思いますか
・住んでいる人の考えと、県としてのまとまりのどちらが大切だと思いますか
・三重は布引山脈で川が伊勢湾と大阪湾で分かれ、文化も変わります。県を二つに分けることはいいと思いますか
・地方をどういう基準で分けたらよいか

熊野の人
・三重県はどちらの地方だと思っているか
・地方をどういう基準で分けたらよいか
・伊賀が関西に入ったらどう思いますか
・名古屋は遠いのに大阪に比べて身近に感じるのはどうしてですか

大阪・名古屋の人
・三重県はどちらの地方だと思っているか
・三重は東海と関西どちらに入ってほしいですか
・三重県が関西に入ったらどう思いますか
・伊賀が関西に入ったらどう思いますか
・三重県をどんな県だと思っていますか
・地方をどういう基準で分けたらよいか

調査方法の確認
・依頼の仕方について
社会係（ＭＹ・ＨＹ・ＫＫ）とＦＭを中心に依頼文を作成・発送

↓

<第８次>　２１～２４時

手紙やビデオレターをもとにした話し合い
テーマ「伊賀は関西とのつながりが多いから、三重をまとめて東海とみてほしくない」「住んでいる人が納得できる分け方をしてほしい」について

総務省
国土交通省
　三重は近畿圏でもあり中部圏でもある
　→そんなこと調べてわかっていることである
帝国書院
　明治の教科書から三重を近畿にしている
　理想は自然・歴史・産業・商圏・文化などをトータル的に考えるとよい
　法律的な規定はない
　↓
○私たちはなんの答えがほしかったのか
　→※ほんとうはどちらの地域なのか
　　※納得できる地域分けはいいのか
　　※同じ意見を持った人がいる分け方をしてほしいがどうか
大阪の人
　伊賀を関西と思っている人
　　経済・文化・交通・自然・歴史が関西と結びついている
　東海と思っている人もいる
　　→私たちは我慢する必要がある
　　↑
　　伊賀は名古屋と関わりがないのにあかん
　　住んでいる人の意見が優先、我慢するなら分ける
愛知の人
　愛知の人にとって三重は大切、中京工業地帯も近い
　　←伊賀をみていない
　地域住民の最優先、県を考え直すことも大切
　↓
○どうしたら納得するの
　→※文化の違いをわかってほしい
　　※伊賀はなんか違うこと
０７化運動の岡本さん
　自分たちのためのシステムを作ってほしい
　正しい名前で呼ばれたい
　自分たちが快適に過ごせるかが基準　｜近い考え
　　＝伊賀を関西に入れる＝三重を分けてもよい
　　↑
　なぜ関西とよばれたいのか

◎思考の視点を変えながら考えを深めることができたか（思考）
○話し合いに関心を持って取り組めたか（興味関心）
○発表された内容を理解することができたか（知識理解）

　→身近か　　名古屋は想像がつかない
　　身内がいる　　遊びに行く
　生活圏、東海と思われるのは嫌
PHP 研究所の永久さん
　県をわることも出てくるでしょう
　話し合いで分ける
　伊賀は伊賀
　　→住民にまかせる、私たちが決めること
　　↑
　　関西の伊賀か、東海の伊賀か問題だ
　　→どちらに入っても伊賀は伊賀だ
　　　関西でも東海でもないことだ
　　三重を分けない
　　納得いかない人も出てくるから我慢する
　　↑
　　伊勢が我慢したらよい
　　分けても１００年もたてばまとまる
　　分ける方法によるが三重全体で見たら東海
　　↑
　　全体で見たらあかん
　　だから違うの！東海じゃないの
　　↑
　　今までも関西の文化が入っているんだからそれでいいんじゃないの
　　↑
　　どちらかに決めるべきだ
↓
みんなの考えはさまざまで、いろんな考え・立場があるね
　（県を分ける～伊賀は伊賀という思い～我慢する）

伊賀県民局の杉野さん
　伊賀関西戦略
　　伊賀地方の関西に対する思い

それぞれの考え・立場を明らかにしよう
↓
自分の思いをアピールしよう

↓

<第９次>　２５～２９時

＜自分の思いをアピール＞

自分の考え・立場をもとにして、自分の思いをアピールしよう
自分のアピールで手紙やビデオレターをくれた人に応えよう

①（アピールしたいことを自分の頭の中で明らかしておいた上で）　自分がふさわしいと思う題をつけること
②アピールしたいことは何かがわかるようにすること
③そのために今まで調べたり・話し合ったりしてきた中から、どのような内容を書くか
④書いた内容をもとに、どのように自分なりに結論づけるか
（⑤疑問や課題として残ったこと）
※①②③④（⑤）をふくんで、自分らしくまとめること。資料などを切りはりしてもよい
（手紙やビデオで答えてもらった人に訴えるようなつもりで書くこと）

アピール内容
＜関西に＞
　住民第一!!納得できる地域分け戦略
　伊賀は絶対!!関西やねんで！戦略
　伊賀を関西にしてしまえ！戦略
　THE 伊賀を知ってくれ～戦略
　伊賀を関西に!!!戦略
　伊賀道州制戦略
　三重県を２つに分けるべき
　伊賀「脱東海」戦略
　私が関西と思っている理由
　大阪を身近に感じる理由
　TRAIN 2　走っていく TRAIN 2　おおさかへ～
　伊賀関西化戦略
　伊賀関西戦略
　伊賀を関西に
　伊賀関西戦略
　電話番号０７化運動
＜伊賀は伊賀＞
　伊賀中立戦略
　伊賀は伊賀だけ
　関西と東海の三重
　無理矢理は困る
　いけんにたいしてのいけん
　伊賀「０７化」戦略
＜我慢を＞
　伊賀は我慢で
＜三重で＞
　三重は一つの県
　三重はそのままでよい!!
　三重のことでのアピール

アピールの紹介

社会係を中心に謝礼文およびアピール集の発送作業

◎今までの話し合いの内容を考えながらアピールを作ることができたか（思考）
◎目的に応じて、今まで学んできた資料を用いてわかりやすいアピールを作るこ
とができたか（資料活用）
◎今まで学んできた知識を用いてアピールを作ることができたか（知識理解）
○積極的にアピールづくりに取り組めたか（興味関心）

Ⅵ　実践資料

○三重県下の中学校へのアンケート結果

三重県に関するアンケート集計

2002年12月　　上野市立丸山中学校1年A組

地域		北勢			中勢	南勢志摩	東紀州	伊賀	
郡・市 中学校名		桑名 S中	四日市 N中	亀山 K中	津 K中	志摩 F中	南牟婁 A中	名張 N中	上野 丸山中
① 三重は近畿関西それとも中部東海、あなたはどちらと思いますか？ ア 近畿関西 イ 中部東海	ア	42	32	30	36	67	57	70	89
	イ	58	68	70	64	33	43	30	11
② あなたは大阪と名古屋どちらを身近に感じますか？ ア 大阪 イ 名古屋	ア	9	13	7	13	39	41	92	96
	イ	91	87	93	87	61	59	8	4
③ あなたは関西人ですか？ ア はい イ いいえ	ア	20	22	29	23	24	18	68	100
	イ	80	78	71	77	76	82	32	0
④ あなたが見ているテレビ放送は大阪からの放送ですか名古屋からの放送ですか？ ア 大阪から(2・4・6・8・10・12チャンネル) イ 名古屋から(1・3・5・9・11・35チャンネル)	ア	6	20	6	11	0	46	69	96
	イ	94	80	94	89	100	54	31	4
⑤ あなたは何弁を話しますか？ ア 関西弁に近い イ 名古屋弁に近い ウ 標準語に近い	ア	41	49	60	47	59	47	66	100
	イ	18	7	5	17	5	2	3	0
	ウ	41	44	35	36	36	51	31	0
⑥ あなたの家の料理の味は？ ア うす味 イ こい味	ア	44	44	35	36	47	50	37	59
	イ	56	56	65	64	53	50	63	41
⑦ あなたの家の正月のおぞうにの味は？ ア みそ味 イ しょうゆ味	ア	13	17	21	34	5	24	53	64
	イ	87	83	79	66	95	76	47	36
⑧ 三重県の電話市外局番についてどう思いますか？ ア 近畿関西と同じ「07‥」からはじまって欲しい イ 中部東海をあらわす今のままの「059‥」でよい	ア	9	10	6	8	7	11	20	35
	イ	91	90	94	92	93	89	80	65
⑨ 三重県には布引山地を境に川が伊勢湾に流れる地域と大阪湾に流れる地域があるということを授業で発見しました。そしてその境で三重県を2つの違う県にわけたらよい(三重を分割する)という意見が出ましたがあなたはその意見についてどう思いますか？ ア 賛成 イ 反対	ア	25	10	12	10	11	17	16	30
	イ	75	90	88	90	89	83	84	70

＜数値はすべて％＞

○国土交通省・三重県民局・関西テレビ・ＰＨＰ研究所・大阪の人・名古屋の人・熊野の人への依頼文

調査のお願い

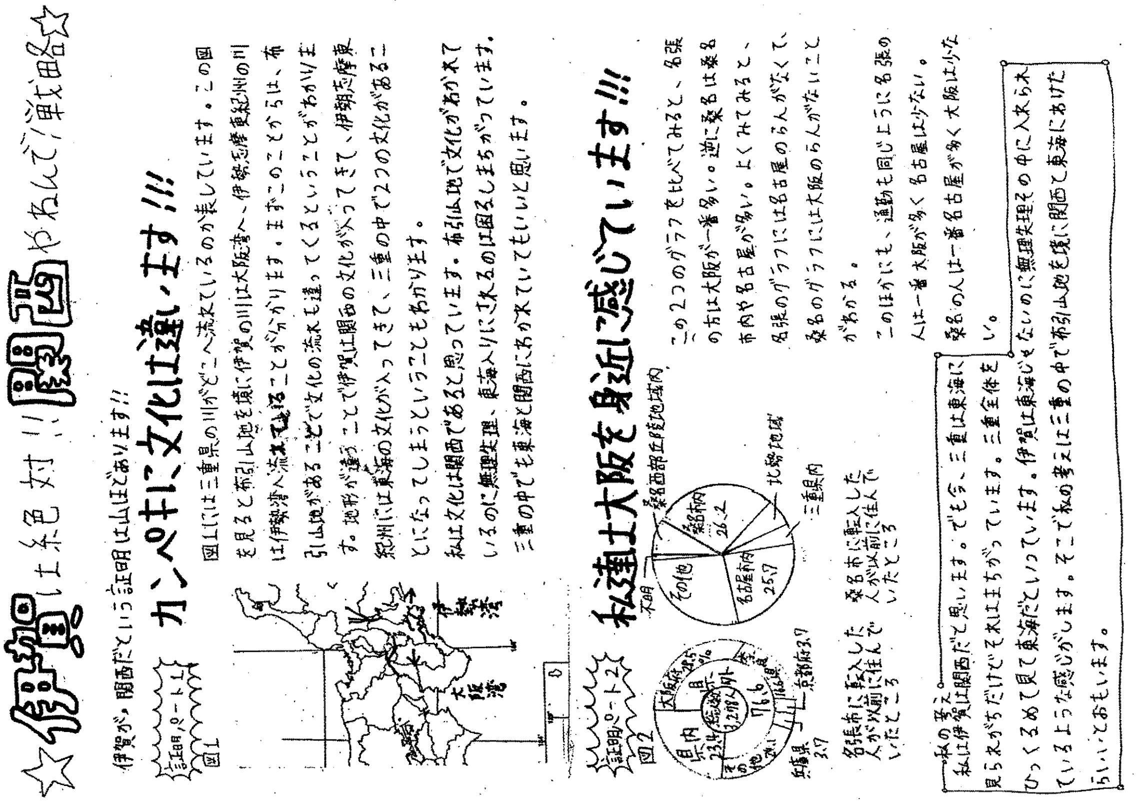
私たちは上野市立丸山中学校の1年生です。

私たちの住む上野市は三重県の西部に位置しています。

今、社会の授業で三重県のことを勉強しています。その中で三重県は近畿・関西なのか中部・東海なのかという疑問が出てきました。私たちは当然近畿・関西だと思っていたのですが、三重県の各地域にアンケートを取ったりして調べていくうちにどうやら三重県の他の地域と私たちの住む伊賀では考えが違うことに気づきました。ではどうして伊賀だけが考えが違うのか、1人1人が三重県のそれぞれの地域の特色から何か分かることはないかといろいろな角度から調べました。

その中で道州制という考え方があることを知りました。そして三重県は中部・東海地方に入っていたことについてこんな反対意見が出ました。「せっかく道州制をするのだったら、住んでいる人が納得できる地域分けをしてほしい。」という意見です。どうしたらいいのかと考えましたが、私たちで考えていずに、いろいろな人に意見を聞かせてもらおうと、みんなで決めました。私たちは「うちら関西人やんな!」をモットーにやってきましたが私たち以外の人々はどう思っているのか知りたいのでよろしくお願いします。

○アピール「伊賀戦略〜伊賀のあり方〜」作品例



Ⅶ　指導の分析

・生徒の社会科認識の変化と課題

　4月入学時に実施した社会科に対する意識調査〈社会科で重要なことは〉で生徒は次のように回答した。

　入学時…言葉を覚える7人　　調べる14人
　　　　　考え話し合う6人

　しかし，単元終了後の3月に実施した意識調査では次のような結果になった。

　3月　…言葉を覚える2人　　調べる6人
　　　　　考え話し合う19人

　また同じく3月意識調査で，〈報告者の授業を受けて変わったと思うこと〉〈報告者の授業の特徴〉について書く項目をもうけた。結果は以下の通りであった。

〈報告者の授業を受けて変わったと思うこと〉

・何事にも取り組む
・ひとつのことに集中できるようになった
・小学校の頃よりもたくさん発表できるようになった
・自分の意見を積極的に言えるようになった
・よく発表するようになった
・今までは人の話を聞かなかったけど，人の話を聞けるようになった
・いっぱい意見を言った，調べものが楽しくなった調べることが好きになりました
・自分でいろんなことについて調べることができた自分で疑問に思ったことを調べられるようになった
・疑問に思ったことを自分で調べるようになった
・家族と社会に関わって調べることができた
・はっきり意見が決まるようになった，自分で調べられるようになった
・文章や考える力が伸びた

・いろいろな考えができるようになった
・意見の根拠を考えるようになった

人の話を聞く習慣を持たなかった生徒が人の話を聞いて考えることができるようになったり，意見の根拠を考えながらいろんな方向からものごとを積極的に考え明らかにすることができるようになったと判断できる。

〈報告者の授業の特徴〉
・よく話し合う，意見を出し合う
・ひとつのことを中心に大きく話が広がっていく
・黒板を消さずに，ひとつの疑問についてみんなで意見を出し合って考えていく
・みんなの意見を聞くところ
・たくさんの人の意見を聞いてくれる
・言いたいことが言える
・いろんな立場に立って授業を作り出してくれる
・個人で調べたり考えたりするところ，調べるのは大変だけどはっきり意見が決まる
・笑いがあったし，個人で調べることも多かった先生が実際に外国へ行ったり，いっぱい資料を見たりと，おもしろい
・疑問に思ったことをすぐに言える授業と，ただあったことをノートに写す授業（ただ写すのはおもしろくない）の違いがある
・他の先生は教科書に沿っていくけど，違っていておもしろい
・教科書通りに進むよりもでてきた意見によって進む方がいいと思う，楽しい，授業をやっている感がある
・話し合うことも大切だと思うけど，他の学校の子より詳しいことがわからないのではないか？と思う　他の学校のこと違うことをしているので入試の時に困るかもしれない知識を詰め込まれることはなかったけど，知識を私は持っているのか？心配になる
・教科書を使わないこと，塾の先生に入試の時に困ると言われた，かなり心配

「ひとつの疑問についてみんなで話し合っていく」「いろんな立場に立って授業を作り出してくれる」「調べるのは大変だけどはっきり意見が決まる」などから，4月にめざしたこと，「生徒が自分で問題や課題を見つけ，自ら考え判断しながら，自ら解決していく資質や能力，すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに，問題解決の喜びを実感できるような授業を構想したいと考える」は，ほぼその目標に近づくことができたと思われる。

ただ，ここで注目したいのは，「教科書通りに進むよりもでてきた意見によって進む方がいいと思う，楽しい，授業をやっている感がある」と「話し合うことも大切だと思うけど，他の学校の子より詳しいことがわからないのではないか？と思う，他の学校の子と違うことをしているので入試の時に困るかもしれない。知識を詰め込まれることはなかったけど，知識を私は持っているのか？心配になる」という二つの授業に対する感想の対立である。考えて話し合ったり調べたりする授業は，知識定着という面で効果があるのかという問題である。一部の生徒の「話し合いを中心とする授業を続けていて，受験に必要な知識がきちんと身に付いているのか」という考え，また一部の教師や保護者の「話し合いよりも，教師がきちんと説明してやるほうがよく理解できるし，覚えられるはずだ」という考えに対して，話し合いを中心とした授業が，社会認識を育てるということだけでなく説明する授業と比べても知識の定着や理解の促進に差がない（もしくは知識の定着や理解の促進においても有効である）ということを証明しようとした研究報告(2)がある。ある単元について，説明中心に授業をおこなったクラス（説明群）と話し合い活動中心で授業をおこなったクラス（話し合い群）を設け，事前，事後，３ヶ月後の知識の定着を測り分析したものである。結果は話し合い群のほうがより多くの知識定着がみ

られ，特に3ヶ月後の差が大きい。また，話し合い群の成績下位層に対してより多くの知識定着の効果がみられることがわかる。

このように話し合いを中心とする授業のほうが，知識定着においてもより効果的であるといえる。

子どもが授業中前向きに取り組めるとき，消極的でやる気がなくなるときについて報告者がかつて勤務した中学校のアンケート結果[(3)]がある。

質問：「授業中，前向きに取り組めることができるのはどんなときですか」

① 興味を持っていることを学習するときや，実験をとおしたり，教科書を離れて学習を深めたりするなど未知の分野を学習していると実感することができるとき。

② 自分なりに納得したり解決したりすることができたときや，学習の過程を振り返って成果を確かめることができたとき。

③ 自分たちが主体であることを意識しながら学習に取り組むことができるような授業の展開や，他の生徒とともに学習を進めている実感が味わえるようなときや，先生や，まわりの雰囲気が生き生きしているとき。

④ 体調のいいとき。

質問：「授業中，消極的になったりやる気がでなかったりするのはどんなときですか」

① 難しいときや，わからなかったとき，発表できなかったときなど，学習の成果を確かめたり，満足することができなかったりしたとき。

② 説明ばかりの授業で自分から考えたり活動したりする場面が少なく退屈だったり，周りの雰囲気が沈んでいたり，のびのびと活動することができなかったりするとき。

③ 体調の悪いとき。

このように生徒にとっても望ましい授業とは，自らの興味・関心にしたがって主体的に関われるような授業であるといえるだろう。

〈註〉

(1) 平成16(2004)年11月1日，上野市伊賀町島ヶ原村・阿山町・大山田村・青山町は合併して，伊賀市となった。

(2) 小川雅弘「中学校社会科授業における話し合い活動の学習効果」(全国社会科教育学会第46回大会)

(3) 三重大学教育学部附属中学校『研究紀要第18集』1996, pp9～10